

核戦争推進の石破打倒！ 11・3労働者集会に集まろう

中国侵略戦争に突き進む石破政権

自民党・石破政権は、28.0%という低支持率（17日、時事通信）にあえぎ、この危機をなんとか乗り切ろうと中国への排外主義を煽って中国侵略戦争に突き進んでいる。石破は総裁就任直後から「中国を抑止するためには『アジア版NATO』の創設が不可欠」「その枠内で核の共有や持ち込みについて検討すべき」と発言し、また14日放送のテレビ番組でもアメリカの核兵器運用に関与する「核共有」への意欲を示し、「どんな時に核を使ってどんな時に核を使わないのかが全然分からない。それをきちんと話せる体制をNATO並みにつくる」と宣言した。世界唯一の被爆国として全世界に核廃絶を訴えるのではなく、中国と戦うために日本も核兵器を運用しようというのだ。断じて許すことはできない。

しかし、これに対し「中国侵略戦争阻止」を真正面から訴える勢力は議会内野党には皆無だ。立憲民主党は一貫して「日米安保基軸路線」、日本共産党も9日の党首討論では戦争問題に一言半句も触れず、総選挙では「働く人の自由時間拡大」を掲げるのみである。日本の首相が「核共有」の必要性を訴えて核武装を進めようとしているという歴史的事態を全く問題にもしていないのである。

核戦争を阻止し、核廃絶を勝ち取る道は、労働者・学生の反戦デモ・ストライキで核戦争を進める日本帝国主義・石破政権を打倒することにある。11月3日、東京・日比谷で行われる全国労働者総決起集会に集まり、東京の街に6000人の大反戦デモを出現させよう。

日米大軍事演習「キーン・ソード25」を許すな



10月23日から11月1日まで、中国を「敵国」と名指した日米共同統合実動演習「キーン・ソード25」が行われている。沖縄・九州をはじめとした全国の民間空港・港湾・公道を使用し、自衛隊約3万3千人、米軍約1万2千人、航空機370機、艦艇40隻を動員し、さらに仏・独・伊・英・蘭などNATO加盟国や豪・加・印・韓・比などがオブザーバー参加する。まさに日米による中国侵略戦争の「実動」を想定した、アメリカ帝国主義側の陣営を揃えた一大演習だ。中国軍が14日に台湾海峡でおこなった軍事訓練は演習期間1日、航空機125機、艦艇34隻を動員するもので、演習の規模は日米がはるかに上回っている。政府やマスコミは「中国の脅威」を激しく煽り立てているが、軍事力で圧倒的に凌駕する米日に、どうやって中国が脅威を与えようというのか。中国に対して侵略戦争を仕掛けようとしているのは米日の側だ。

今回のキーン・ソード25では、石垣島に米海兵隊の高機動ロケット砲システム「ハイマース」を初めて展開し、日米共同で対艦戦闘訓練が行われる。また奄美群島のうち4島では、訓練の際に自衛隊（裏面に続く）

闘争スケジュール

☆10・27全関西狭山闘争 10月27日(日) 17時 豊崎西公園

☆10・30広島暴処法弾圧 公判前整理手続き弾劾闘争 10月30日(水) 12時 広島地裁前

☆11・3全国労働者総決起集会 11月3日(日) 東京・日比谷野外音楽堂

正午 総決起集会 / 午後3時 銀座デモ 参加費500円

の施設や訓練場ではない山間部や海岸、畑、公園など日常生活の場までもを広く使用する「生地（せいち）訓練」が行われる。そしてキーン・ソード25のもう一つの重要な点は、9月初頭から11月下旬にかけて行われている陸上自衛隊演習と一体の演習であるということだ。この陸自演習は①陸自の全部隊約10万人を動員し、②全国規模で作戦準備から実動までを演練し、③キーン・ソード25に参加する、ことを特徴とする。キーン・ソードはこの陸自演習と一体でのべ13万人を動員する、列島を挙げた軍事訓練なのだ。日本政府・防衛省の言う「島しょ防衛」「日本の自衛」などは全くの嘘で、石破はまさに「日本全土の戦場化」を見据え、人々の命・生活を犠牲にして中国侵略戦争に動員しようとしている。

石破政権は野党の総屈服に助けられ、このような大軍事演習を進めている。しかし、私たちには祖国を守るために命を捨てる義理などない。今こそ、中国・アジアの人々と連帯し、米日による中国侵略戦争を、帝国主義打倒の内乱に転化する闘いに立ち上がろう。11・3労働者集会に集まり、労働者・学生6000人の怒りで戦争を進める石破を打倒しよう。

帝国主義の本性あらわにしたG7防衛共同宣言

20日、米日を中心とするG7（主要7カ国）が、初の国防相会議をイタリア・ナポリで開催した。G7各国は、中国によるインド太平洋地域への「力または威圧によるあらゆる一方的な現状変更の試み」に強く反対し、「法の支配に基づく自由で開かれたインド太平洋へのコミットメントを確認する」ことを表明した。表面でも述べた通り、米日を中心とするG7は、中国の軍事行動を「脅威」だと煽り立て、「法の支配」「自由」の名のもとに中国侵略戦争を進めているのだ。

2年半以上にわたって続くウクライナ戦争について、G7は「ロシアによる侵略」のみを非難し、「ウクライナの自衛権を支持する」「ウクライナが、NATO加盟を含む欧州・大西洋への統合に向けた不可逆的な道筋にあることを支持する」と示した。既にウクライナ戦争でウクライナ・ロシア両国の死傷者は100万人を超えていると言われていたが、これ以上犠牲者を増やさぬよう即時停戦に向けて動くのではなく、NATO＝米帝の陣営にウクライナを引き込み、ロシアを押さえつけ米帝の世界支配を維持するためにどこまでも戦争を長引かせているのだ。またパレスチナ情勢についても、「ハマスによる残忍なテロ攻撃」のみを断固として非難し、4万人以上の虐殺をほしいままにしているイスラエルに対して支持を表明した。これが米欧日帝国主義の本性である。

11・3労働者集会に集まり、労働者学生の国際連帯で戦争・虐殺を今すぐ止めよう。



10・21国際反戦デー情宣・梅田反戦デモ貫徹！



写真：職員・警察による弾圧を打ち破り、クスノキ前で反戦アピールに立つ停学当該の飯田さん

10月21日の国際反戦デーに際して、我々全学連は京大クスノキ前で昼休みに拡大情宣を開催した。京大当局は9月26日付で、学内で反戦闘争・パレスチナ連帯闘争を先頭に立って闘う全学連副委員長の亀井さんを含む5学生に対して1～2カ月の不当な有期停学処分を下し、期間中の学内入構を禁止した。情宣当日も大学職員が停学当該の入構を阻止しようとし、門前には警察権力が配備されていたが、この許し難い弾圧に屈せず、当該をはじめ多くの学生たちがマイクを持ち、今始まっている中国侵略戦争を阻止しよう、11・3労働者集会に集まろう、とキャンパス生に鮮烈に訴えた。この数カ月で反戦闘争を闘い始めた学生や、留学生の仲間も参加した。

夜は大阪での梅田反戦デモに参加。大阪の労働組合の仲間たちと共に、飛び入りを含め約100人ほどのデモ隊で「戦争反対・改憲阻止！」の声を梅田の街に響かせた。